渋谷区恵比寿の5×緑ショースペース。スタジオ車の中庭に緑が輝く

小さな「里山の自然」を暮らしの中で楽しむ

写真／永妻垂矢子

5×緑 GOBAI MIDORI

■東京都渋谷区恵比寿 5×緑研究所

50年前には身近にあった里山の自然。私たちは都市的な便利さや快適さと引きかえに、ほんとうに健康的な暮らしや本質的な快適さを支えてくれていた里山の豊かな植生を放棄してしまいました。いちど手に入れてしまった「都市生活の便利さ」をあきらめることなく、いちど手放してしまった「人間と自然が共存する日本本来のよさ」を回復することができるのか？　いま、何よりも切実なこのテーマに挑戦する『5×緑』のシステムをご紹介します。

アゼターフの中に力強いランナーを伸ばすカキドオシ。
この緑の生気のかたまりは、
都会のビルの中庭に置かれたティーテーブルなのです！

土木工事の世界で「フトンカゴ」と呼ばれる金網でつくった直方体のカゴのなかに人工土壌アクアソイルを入れ、植栽をほどこしたものが「5×緑」の基本形。4辺側面にもソル植物やシバなどの緑を植え込むことができるので、同じ設置面積で5倍の緑を得ることができる。そこから「5倍緑」のブランド名が生まれた

テイカカズラ。初夏に小さな白い花を咲かせる常緑のツル植物。小さな葉はツヤがあって美しく日陰にも強い

テイカカズラの花。すばらしい芳香を放つ

里山や畦道の緑はなぜか私たちをほっとさせます

東京都渋谷区の恵比寿駅から歩いて7分ほど。スタイリッシュなコンクリートの建物の中庭に、不思議に心ひかれる緑の空間が見えます。

緑の正体は、中庭に置かれた腰をおろすのにちょうどいい高さのいくつかの立方体と、丸いガラスの天板を載せたテーブル、樹木の植えられた直方体です。金属のワイヤーでつくられた立体は、床に接している面をのぞく5つの面のどれもが、いきいきと育った植物の緑でおおわれています。

その緑のキューブのひとつにすわってみると、お尻の下のひんやりとした草の感触や、手のひらにチクチクと触れる野芝の感覚が、なじみ深く懐かしいものであることに気づきます。土手や草原、田んぼの畦。ピクニックや遠足で草の上にすわってお弁当を広げたときの感触です。

『里山や畦道の緑は、なぜか私たちをほっとさせます。それは、私たちの世代を超えた記憶を呼び起こすからではないでしょうか。いま、西欧化するまえの日本について、環境や文化の視点で再評価が進んでいます。都市的な生活を否定することなく、人間と自然が共存していた日本本来のよさをもう一度取り戻したいと私たちは思っているのです』。そんな思いを共有する4人のプランナーやクリエイターをコアメンバーとして『5×緑(GOBAI MIDORI)研究所』は発足しました。

個人の生活の緑が街全体の緑へとつながっていく

『5×緑』のスタートは、街づくりの仕事を通しての4人のメンバーと、環境デザイナーの田瀬理夫さんとの交流がきっかけでした。田瀬さんの代表作のひとつ、アクロス福岡では、地上から60メートルの高さまで続く階段状のコンクリートの建物全体を岩山に見立てて、そこに100種類を超える在来植物を植栽し、ほとんど無灌水、無農薬、無肥料で育成できるエコロジカルな空中庭園をつくり出しています。

アクロス福岡をはじめとする「社会的な緑化」に加えて、もうひとつ田瀬さんがイメージするのは、ひとりひとりの個人の生活に緑が取り戻されれば、そこからかならず街全体の緑へとつながっていくはずだということでした。この田瀬さんの考えに深く共感した4人は、田瀬さんの緑のシステムによって個人の住宅でも身近に里山の植物を楽しめるような仕組みをつくろう、と考えました。

こうして女性4人を中心とする「販売チーム」と田瀬さんを囲む「生産チーム」の男性4人でスタートした『5×緑研究所』が提案するシステムは、まさに個人の住宅の1軒1軒のベランダや屋上や屋根や庭に、里山の自然をかんたんに取り込むことのできる方法です。

福島県の休耕田でつくられる「無農薬有機雑草」と呼べそうな草のターフ(アゼターフ)や、日本の在来種を中心とした園芸種の植物を植え込んだ里山ユニットは、ベランダでも屋上でも、ぽんと置くだけで、そこに小さな里山の自然を出現させます。

「インテリアグリーンは常緑のものが多いのですが、『5×緑』でつくったものは、秋になると紅葉します。かわいい里山が目の前にある、というような感じです。落葉した小さな里山は春になるとぱあっと新芽を出し、5月のある朝、気がつくとものすごく緑が豊かになっています。季節の移り変わりをほんとうに間近で見て感じることができるのです」という『5×緑研究所』メンバーがめざすのは、50年前にはあたりまえのように身近にあった里山の健康な植生を、少しずつでも着実に回復させることです。

「里山」の小さなユニットを都市の生活に運び込むところからまず第一歩を踏み出した『5×緑』のシステムは、「理想」を「現実」に変えていく力強いプランとしていま大きな注目を集めています。

手前から3つのユニットで里山1坪分の植生になる

「里山1／3坪ユニット」。上段はヤマツツジ、ハウチワカエデ、クサボケ、アマチャほか。側面はチガヤターフ

Living Garden
くつろぐ やすらぐ
リビングガーデン

都会の暮らしに小さな里山を持ち込む。
小さな自然の四季折々の表情を、
身近な場所で、見て触れて楽しむ。

5×緑研究所
TEL 03-3463-5355
http://www.gocaimidori.jp

里山ユニットガーデンに植えられている植物

「里山1坪運動」、始めます。

5×緑研究所

私たちの住む街の1軒1軒のベランダや屋上や屋根や庭。その1坪1坪に里山の自然を取り戻すことから始めようという運動です。たとえそれが小さなスペースでも、おとなりも上階の人もそれぞれが1坪の里山を手に入れれば、街全体では大きな自然が生まれます。また、そのことは、植物の生産地である里山の経済活性化にもつながっていくものです。

5×緑研究所では、この運動を進めるために、ベランダや屋上などに里山の自然を容易に持ち込める技術としくみを開発しました。それは、緑に手をかけることを楽しみたい人も、気軽に緑と親しみたいという人も、みんなが取り入れられるシステムになりました。

ひとりひとりの気持ちよさが、街全体の快適さや豊かさにつながっていく。個人の楽しみが街の環境を少し良くする。たくさんの人が自分の楽しみややすらぎに投資すれば、街にはそれだけ環境ストックが蓄積する。そしてその投資は、遠い里山の自然を回復することにも役立っていく。そんなことを始めたいと思います。

私たちは「里山1坪運動」をスタートさせます。